

無担保で借りられ追加も簡単

カードローン利用慎重に

銀行のカードローンの貸出残高が増え続け「将来、多重債務者が激増しかねない」との懸念が広がっている。日本銀行によると、国内銀行の貸出残高は二〇一六年度末で約五兆六千億円と一年度末の約一・七倍にまで増え

A子さんが初めてカードローンを利用したのは二〇一三年六月三日。B銀行と契約し二十万円を借り入れた。金利は年14.6%で、利用限度額は五十万円。現金自動預払機(ATM)で借り入れ、預金口座からの自動引き落としで毎月の返済をすることになった。

重い利息 借金が膨らむ懸念も

最初の返済は四千元(表参照)で、翌七月一日に口座から引き落とされた。ただ、これで借金残高が十九万六千円になるわけではない。返済額に利息分と元金分があるからだ。利息分は、六月三日時点の借入残高の二十万円に、一日当たりの金利0.04%と経過日数の二十八日をかけて二千二百四十

年月日	借入額	返済額	返済額の内訳		未返済の元金残高
			利息分	元金分	
6月 3日	200000				200000
7月 1日		4000	2240	1760	198240
30日	20000				218240
8月 1日		6000	2473	3527	214713
12日	50000				264713
26日	20000				284713
28日	14000				298713
9月 2日		6000	3250	2750	295963
11日	40000				335963
25日	10000				345963
10月 1日		8000	3776	4224	341739
11日	70000				411739
11月 1日		10000	4824	5176	406563
15日	20000				426563
25日	20000				446563
(途中の約3年の記載を省略)					
16年 11月 1日		10000	5748	4252	491328
25日	7000				498328
12月 1日		10000	5911	4089	494239
9日	5000				499239
17年 1月 4日		10000	6773	3227	496012
28日	3000				499012
2月 1日		10000	5559	4441	494571
3月 1日		10000	5539	4461	490110
合計	669000	434000	255110	178890	

カードローン ほとんどの場合は、担保も保証人もなく借りられる。消費者金融会社がこの商品に力を入れた結果、十数年前には多重債務者が200万人を超して社会問題化した。近年は、低金利を背景に経営環境が厳しい銀行が利幅の大きいカードローンに力を入れ、「年収証明不要」などと簡単に借りられる印象を強調した広告が目立つ。

司法書士らは「多重債務者のほとんどは枠いっぱい状態返済、追加借り入れを繰り返す」と指摘する。A子さんも今年三月までの三年間、返済と借金を繰り返した。今年一月四日時点では、借金残高は四十九万六千二百円にまで膨らんでいたが、Aさんは「あと三千円なら借りられる」と考えたという。借金地獄に陥った人の共通の心理だ。これでは完済する日は永遠にこない。最後の返済は今年三月一日で、借金残高は約四十九万円に。A子さんとB銀行の取引金額を合計したのが、表の最下段の数字。借り入れの合計額は約六十七万円で、返済合計は約四十三万円で、このうち利息分が約二十五万円で、元金返済に回った分は約十八万円しかなかった。カードローンは、毎月の最低返済額を契約で決めるが、途中で増やすことも可能。銀行でカードローン業務を担当する二十代の男性は「借金残高をとにかく減らすことが大切。ボーナスを手にしたら、それを原資にしてなるべく多い金額で繰り上げ返済をすべきだ」と打ち明ける。A子さんの年収は、夫と合わせても四百万円未満。二人の子どもを抱え、学費などの費用がかさんだことなどが原因で、クレジットカードのリボ払いによる買い物やカードローンでの借金を始めたという。借入残高は増え続け、今年三月には信販会社や銀行など七社に合計で約二百三十万円にまで膨らんだ。「銀行カードローンやクレジットカードのリボ払いの危険性をもっと考えるべきだった」と後悔するA子さん。今年春に司法書士に依頼し、現在は債務整理の手続きを進めている。